

# 26年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 2月20日～ 26年3月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
3月分の回答企業数は14社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 50.0	△ 41.7	△ 41.7
	マツ	△ 18.2	△ 27.3	△ 31.8
	広葉樹	△ 32.1	△ 25.0	△ 21.4
消費動向	スギ・ヒノキ	5.0	10.0	5.0
	マツ	5.0	5.0	5.0
	広葉樹	△ 23.1	△ 3.8	△ 7.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 54.2	△ 41.7	△ 41.7
	マツ	△ 36.4	△ 27.3	△ 31.8
	広葉樹	△ 35.7	△ 32.1	△ 35.7

国産チップ原木の入荷は全ての品目において減少傾向で推移。

スギ・ヒノキ及びマツ原木の消費は、やや増加傾向で推移、広葉樹は減少傾向で推移。

原木在庫は全ての品目において減少傾向で推移。

### (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
スギ・ヒノキ	12.5	8.3	8.3
マツ類	9.1	9.1	9.1
広葉樹	7.1	3.6	3.6

チップ用国産原木価格は全ての品目において、やや強保合で推移。

## モニターからのコメント

(原木荷動き) ・スギ・ヒノキ原木の仕入れは山林労働者の減少、B材の高値で減少、マツはマツ山の減少、用途減で出材悪い、広葉樹は変化なし。消費は各樹種とも変動なし。在庫は入荷減で減少。  
・広葉樹原木は積雪のため一時的に入荷減も、天候回復により増加が見込まれる。針葉樹原木は国有林からの入荷がなく減少傾向の模様。  
・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹とも仕入れ、消費及び在庫共に変動なし。  
・今月末で雪も融け始めるので、今月が入荷量のピークとなるか。消費増量の要請あるが、横ばいの対応となる。今の所入荷順調であるが、在庫は今後はかなり厳しいと思う。  
・スギ原木は、バイオマス向けに集材され、入荷減少、その他は雪のため原木入荷減少。  
・スギ・ヒノキは民有林・間伐材とも変化なく入荷、国有林システム販売が採択されれば、新年度から入荷予定、但し発電用に用途限定。広葉樹、マツは支障木主体で変化ない。スギチップの増産依頼あり、能力一杯で稼働、雑木は減産。スギは製紙用として増産、FIT用の間伐材等は在庫を増やす予定。  
・広葉樹は若干入荷が増え始めた状況。仕入れを見ながらの消費。  
・針葉樹原木は、大雪により奥山、里山ともに出材大幅減。FIT用に貯蔵しており、チップ用は出し惜しみの傾向あり。針葉樹原木は消費、使用量が増。入荷減少により在庫減少。  
・H26.1月頃から用材が値下がり気味、消費税3%アップの影響あり。チップ材仕入れ状況変化ない。  
・2月の大雪で原木入荷少なく、在庫も減少傾向。ただし、3月下旬以降雪害被害木がかなり入る見通し。

(原木価格)

- ・各樹種とも変動なし。
- ・原木価格は変わらず。
- ・広葉樹原木は入荷減少を抑えるため、購入価格を少し値上げする。
- ・FIT対応の間伐材等は2月下旬より買入価格を上げました、製紙用スギ・ヒノキ・マツ・雑木は変化なし。
- ・スギ・ヒノキは値下がりの傾向。広葉樹は現状維持。
- ・針葉樹原木は、FIT用の影響で価格上昇傾向。価格の駆け引きに使われている。

## 26年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
生産動向	スギ・ヒノキ	9.1	4.5	0.0
	マツ類	0.0	△ 5.0	△ 10.0
	広葉樹	△ 23.1	△ 19.2	△ 25.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 4.5	△ 18.2	△ 18.2
	マツ類	△ 4.5	△ 4.5	△ 9.1
	広葉樹	△ 21.4	△ 17.9	△ 21.4
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 35.0	△ 40.0	△ 40.0
	マツ類	△ 33.3	△ 38.9	△ 38.9
	広葉樹	△ 45.5	△ 45.5	△ 40.9

スギ・ヒノキチップの生産は3,4月のやや増加が5月には横ばいに、マツは3月の横ばいが4,5月はやや減に、広葉樹は減少傾向で推移。

出荷及び在庫は、全ての品目において減少傾向で推移。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W.

品目	26/3月	4月	5月
スギ・ヒノキ類	4.5	4.5	0.0
マツ類	0.0	5.0	5.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

スギ・ヒノキチップの価格は3,4月のやや強保ち合が5月には保合いに、マツは3月の保合が4,5月やや強保合に、広葉樹は横ばいで推移。

## モニターからのコメント

(木材チップ荷動き) ・生産、出荷とも製紙用減のまま横ばい。ボード用・燃料用は安定。  
 ・生産・出荷及び在庫とも変動なし。  
 ・生産は、製紙会社の増量に応えることが出来ない。出荷は順調、チップ在庫なし。  
 ・全樹種とも製紙用はフル生産、スギ・ヒノキの増産依頼があり、その分、雑木を減産している。FIT発電用は少ないので納入。チップ在庫はしていない。  
 ・注文に応じた生産、出荷。  
 ・大雪の影響で専業工場の生産が大幅減、原木針葉樹チップの単価見直し(値上げ)の動きあり、燃料は発生量多く使用増につながらない。木材チップの出荷は雪の影響及び人員不足のため生産量上がらず。リサイクルチップ使用量減、積極集荷せず。在庫は針葉樹チップ減少、広葉樹チップ在庫なし。  
 ・3月は生産イコール出荷なのでほぼ横ばい。在庫は雪害の影響で原木入らず、在庫も減少。

(木材チップ価格) ・各樹種とも変動なし。  
 ・製紙会社の工場在庫が減少しているようなので、今後価格に動きあるか？  
 ・製紙用スギ・ヒノキチップの価格上昇、今後FITや輸出に原木が回るようだと原木価格は上がってしまうので、チップ価格に反映されるかもしれない。  
 ・針葉樹チップ値上げの動きあり(4月よりの見込み)、広葉樹チップ横ばい。  
 ・  
 ・